

ていばーく展示場紹介②

逓信博物館の100年展—重要文化財3点公開！—

ていばーくは、6月20日に100歳の誕生日を迎えることから、「逓信博物館の100年展」を6月15日(土)～7月28日(日)まで開催します。そこで博物館の「お宝」である重要文化財を公開し(6月15日(土)～7月28日(日))、**通信実演を1日3回(6月16日(日)～6月23日(日))**行なう予定です。

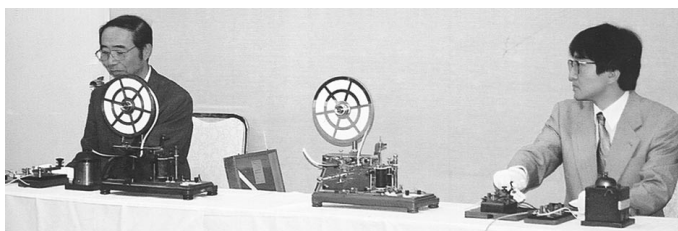
通信実演に使われるのは、安政元年(1854)ペリー提督が幕府に献上し通信実演した「エンボッシング・モールス電信機」(重文)、明治2年電信創業時に使用した「ブレゲ指字電信機」(重文)、初代通信大臣榎本武揚が幕末頃オランダで購入し持ち帰った「ディニエ印字電信機」(江戸横浜間の通信目的のため日本に持ち帰ったが戊辰戦争で行方不明、後電気学会席上で榎本と20年ぶりに再会)です。なお、安永5年(1776)に平賀源内が作った「エレキテル」(重文)は、展示のみとなります。

これらの電信機は、部品の欠損により全く作動しない状態で保管されていました。当館と当所客員研究官の若井登工学博士と通信総合研究所の小室純一氏、三木千紘氏の共同研究により、これらの電信機が甦りました。

実演つきの公開は、今回の100年展に限り実施します。この機会をお見のがしなように是非ご来館ください。



「エンボッシング・モールス電信機」(重文)による通信実演(平成11年12月)
(中央は15代將軍徳川慶喜公曾孫の徳川慶朝氏、
右側は若井登工学博士、左側は通総研の稲森康治氏、小室純一氏)



ディニエ印字電信機による通信実演(平成13年9月沖電気製作の複製機寄贈式)
(左側は当館所蔵電信機、右側は沖電気製作電信機)

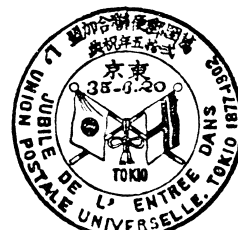
学芸員雑記帳

100歳を迎える「特殊通信日付印」

当館と同じ100歳の誕生日を迎えるものに、記念絵葉書と特殊通信日付印があります。

わが国が万国郵便連合(UPU)に加盟したのは明治10年(1877)6月1日ですが、万国郵便連合条約を施行したのは6月20日です。それから25年へた明治35年(1902)6月20日に中央と地方でそれぞれ式典が行なわれました。この時、初めて記念絵葉書6枚(5銭)の発行と、特殊通信日付印を使用しました。これが記念スタンプの始まりです。特殊印は、この後も記念切手や記念絵葉書の発行と並んで、記念すべき行事や祝典などがあつた時使用されるようになりました。

祝典の翌日からは、本省の新館に開設された郵便博物館(現在のていばーく)において記念展覧会が開かれました。これが、ていばーくの始まりです。なお、郵便創業の功労者である前島密は、この祝典を機に男爵を授けられました。(井上恵子)



最初の特通信日付印